

# 「メディカル・キャンプ・セミナー」レポート

令和2年8月11日（火）に、全道15会場を遠隔システムでつなぎ、「メディカル・キャンプ・セミナー」を開催しました。

今年度は、例年の約3倍に当たる、医学部医学科を目指す高校2年生231名が全道各地に集まり、北海道大学教授による特別講義、道立高校教諭による医学部進学に向けた学習アドバイス、現役医学部生との座談会などを実施しました。

本来であれば、3泊4日の日程で札幌医科大学の見学や旭川医科大学でのワークショップ、進路実現に向けた数学及び英語の講義等を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、日程を1日に短縮して、初めてのオンラインでの開催となりました。参加者は、地域医療の現状や課題を再認識するとともに、将来、自分が医師として地域や社会に貢献するために、今何をすべきかなどについて、考えを深めていました。

## 開 会 式

### 主催者挨拶

○北海道教育庁学校教育局高校教育課 唐川 智幸 課長

- ・主催者を代表して、唐川高校教育課長から、本セミナーの概要やねらいに加え、セミナーの歴史やこれまで参加した先輩たちの活躍等について話がありました。
- ・参加者に期待することとして、「全道から集まった同じ志を持つ仲間との心の絆を深め、進路目標の実現に向けて努力し、将来、本道の地域医療を支える人材になることを期待しています。」と挨拶がありました。



## 特別講義

### 「医師ってどんな職業？」

○北海道大学大学院医学研究院医学教育・国際交流推進センター 高橋 誠 教授



なぜ医師になろうと思ったか、医学部の教育課程、医師国家試験の概要など御自身の体験談を踏まえた説明や、医師としてのキャリアプラン、医師として求められる基本的な資質・能力、未来の医療と求められる医師像について講義していただきました。



【道研会場】

### 【参加者の感想】（一部抜粋）

- ・医師が実際にどんなことをしているのか、医師にはどんなことが求められるかを具体的に知ることができた。高橋教授がどのようにして医師になったかなども自分の進路選択にとっても参考になった。
- ・医師の活動の幅広さを知ることができ、生涯学び続けられる医師に、改めて魅力を感じた。また、知識、技術のみならず、倫理観を身に付けることや他者に共感することの必要性を学ぶことができた。
- ・手術の映像を見たり、実際のレントゲン画像を見たりして、自分が医師になったときのビジョンをはっきりさせることができた。
- ・医師として働くに当たって、どのような人材であれば良いか、その仕事がどのようなものかを知ることができた。

## 講演

### 「全道及び全国の医学部医学科進学の実況」

○学校法人河合塾札幌校 北山 健一 校舎長



近年の医学部医学科の入試の受験環境と動向、志願者数と入試倍率の推移、現役合格者の成績の推移、現役合格を目指した学習計画の立て方や学習方法などについて、実際のデータを基に、今後取り組むべきことなどについて講演していただきました。



【札幌北高校会場】

#### 【参加者の感想】（一部抜粋）

- ・自分たちが今すべきことを様々なデータとともに説明していただいたので、やるべきこと、今の自分に足りないことがよく分かった。
- ・現役合格した人の成績の推移や特徴など、自分に生かせる刺激的な情報が得られた。また、今やっていることの1つ1つを「100」にすることの大切さがよく分かった。
- ・全国の医学部進学の実況を知って、「狭き門をくぐるために勉強に本腰を入れなければならない」と、モチベーションアップにつながった。
- ・合格者の成績や学習計画を見て、自分がすべきことや、そのやり方を明確に意識することができた。

## 説明

### 「本道の医師確保の対策について」

○北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課医師確保係 清水 慎介 係長



北海道の医師数、二次医療圏別医師偏在指数などのデータに基づいた、北海道の地域医療の実況や、本道の医師確保施策である「北海道医師養成確保修学資金貸付制度」など、北海道の取組を説明していただきました。



【釧路湖陵高校会場】

#### 【参加者の感想】（一部抜粋）

- ・北海道は医師不足というよりは、地域で医師の数に偏りがあるということが分かった。
- ・現在、北海道が地域医療に力を入れている理由が分かった。将来的に地域で働くことを視野に入れているので、とても参考になった。
- ・地域医療に関する課題は、医療だけではなく複雑に絡んでいることを汲み取ることができた。自分の事として考えなくてはいけないと思った。
- ・地域枠を利用したいと以前から考えており、今回の説明で具体的なイメージを持つことができ、意欲がより一層高まった。

## 学習アドバイス

### 「数学の学習アドバイス」

○北海道札幌啓成高等学校 大島 寿美 教諭



数学で必要とされる、計算力や瞬発力、応用力、発想力、論理・推理能力、空間把握能力などの資質・能力が医師として求められる力につながっていることや、定義を重視して、本質的な理解を追究することの大切さなどについてアドバイスいただきました。



【苫小牧東高校会場】

#### 【参加者の感想】（一部抜粋）

- 数学で必要とされる能力はたくさんあり、その一つ一つが医療にもつながっていることを知ることができた。
- 定義や定理の証明は面倒くさくてやらないことが多かったけれど、これからは積極的にやろうと思った。
- 計算力から空間把握能力に至るまで必要な能力や、解けるだけでなく教えられるような段階まで理解を深める必要があることを知った。
- 数学を学んでいく上で大切なことをポイント別に丁寧に説明していただき、とても分かりやすかった。これからも数学を楽しみながら学びたい。

### 「英語の学習アドバイス」

○北海道札幌南高等学校 大塚 徹 教諭



英語の学習で必要となる、Input、Output、Interactionに関する3つの仮説を紹介していただき、ペアワークを取り入れながら、それらの重要性についてアドバイスしていただきました。



【空知局会場】

【ペアワークの様子】



### 【参加者の感想】（一部抜粋）

- 自分はまさにひたすらInputし続けるだけの状態だったので、Outputすることなども大切だということが分かった。
- 英語は単語などを理解するだけでなく、それを使えるようにOutputしたり、Interactionすることが重要だということが分かった。
- 実際にペアでやってみて、すごく分かりやすかった。OutputとInputの重要性や役割なども理解できた。
- 英語の学習はもちろん、英語以外にも応用できるような学習法を教えていただいた。

## 座 談 会

### 「医学部生との交流」

- 北海道大学医学部医学科3年 佐藤 謙太郎 さん
- 北海道大学医学部医学科3年 山田 佳祐 さん
- 旭川医科大学医学部医学科2年 宇高 彩 さん
- 旭川医科大学医学部医学科2年 福田 瑞樹 さん



- メイン会場の道立教育研究所に佐藤さん、山田さん、旭川東高校会場に宇高さん、福田さんをお招きし、オンラインでの座談会を行いました。
- 始めに、医学部生の皆さんから、医学部医学科を目指したきっかけ、高校時代の過ごし方、ストレスの解消法や気分転換の方法、医学部生の生活、将来の目標について話していただいた後、参加した生徒から医学部生に聞いてみたいことを質問しました。
- 各会場から、部活動と勉強の両立の方法、小論文や面接試験への対策方法、大学での授業や研究活動についてなど、多岐にわたる質問が出されました。



【座談会に参加してくれた医学部生の皆さん】

### 【参加者の感想】（一部抜粋）

- 受験期の話だけではなく、入学後の話も聞くことができ、勉強のモチベーションが上がった。大学の話を聞いていると、医大に入りたいという気持ちがますます強くなった。
- 他では聞くことができない医学部生のお話を聞くことができ、医学部の厳しさを再確認し、もっと自分が努力すべきだと気付くことができた。
- 医学部に進学したからといって、そこがゴールではなく、そこからが大変であり、それを一つ一つ乗り越えたら、医師というとても素晴らしい職に就くことができると知り、改めて納得した。
- 「自分のためではなく、患者さんのために勉強している」という言葉がとても印象に残った。この言葉は、勉強と進路の両方のモチベーションにつながると感じた。

## 参加者による意見交流

### 「本日の感想及び今後の決意表明」

- プログラムの最後に、本セミナーの感想や今の自分の気持ち、今後に向けた決意などを交流しました。
- 各会場の生徒から、医師として北海道の地域医療に貢献したい、最後まで夢をあきらめず、今できることを精一杯頑張りたいなど、力強い決意が表明されました。



【十勝局会場】

### 【参加者の感想】（一部抜粋）

- ・自分と同じように医学部を目指す人の力強い決意がとても刺激となった。
- ・自分たちが将来の北海道の医療を担う存在になるという意識を高めることができた。
- ・今日集まった高校生はライバルでもあり、同じ目標を目指す仲間でもある。たくさんの感想や意気込みを聞くことで、自分も頑張ろうと思った。
- ・他の学校の人など、それぞれ今日のセミナーで何を感じたのかを知ることができて、刺激になった。このセミナーに参加した人みんな頑張りたい。

## 閉 会 式

### 主催者挨拶

○北海道教育庁学校教育局高校教育課 相馬 利幸 課長補佐

- ・主催者を代表して高校教育課相馬課長補佐から、参加者に対し、「本日のセミナーを1つのきっかけとし、これからの授業や部活動など、日々の努力を積み重ねて進路目標を実現してほしい。また、苦しい時や辛いときには、全道各地で230名もの仲間が同じ夢を目指して頑張っていることを思い出して頑張してほしい。」と激励の言葉を送りました。



### 【全体を通じた感想】（一部抜粋）

- ・医学部に進学するために必要な学力を知ることができ、今の自分の学力からのアプローチを考える機会となった。
- ・医師は学力はもちろんのこと、思いやりや人間性も重要視される職業であることを認識できた。
- ・セミナーに参加して、道内の地域医療に関することや医学部進学のために何をすべきかなど、自分でこれから何をしていかなければならないかが、明確になった。
- ・今回のセミナーを通して、自分も地域のために尽くせる医師として働きたいと思った。
- ・自分は小児科医を目指している。今回の話を聞いて専門医として小児科を選択しつつ、地域医療にも貢献できる医師を目指したいと思うようになった。
- ・自分のための勉強だけではなく、自分が将来関わらるであろう人々のために勉強をするということでもモチベーションを高めて頑張っていこうと思った。
- ・自分の将来を具体的に想像するいい機会となった。医師がより魅力的に見えたのと同時に、医師になること、医師になった後の厳しさも知り、今の自分を見つめ直すことができた。将来の夢が明確になり、有意義な時間となった。
- ・現役医学部生の話や教授の話は将来について考える上で大変参考になった。また、他の参加者の話を聞いたことも自分を律するよい機会となった。
- ・新型コロナウイルスの影響でオープンキャンパスが中止になった大学が多い中、今回のセミナーがモチベーションアップにつながる大変よい機会となった。
- ・今後、医師としての理想像を描きながら勉学に励んでいきたい。

## 各 会 場 の 様 子



【空知局会場】



【道研（第2実習室）会場】



【札幌北高校会場】



【小樽潮陵高校会場】



【胆振局会場】



【苫小牧東高校会場】



【函館中部高校会場】



【檜山北高校会場】



【旭川東高校会場】



【留萌高校会場】



【宗谷局会場】



【北見北斗高校会場】



【十勝局会場】



【釧路湖陵高校会場】



【道研会場】

◆協力 国立大学法人北海道大学  
 国立大学法人旭川医科大学  
 北海道公立大学法人札幌医科大学

◆主催 北海道教育委員会（北海道教育庁学校教育局高校教育課）